

## ■復興みやぎネットワーク会議の位置づけ(意見のまとめ)(※)

作成:みやぎ連携復興センター

意見	
1	配布資料「復興みやぎネットワーク会議(案)」によると、ミッションとして「みやぎの復興にむけて、被災地や被災地で支援活動を行う団体を支える」とあるが、より具体的なものにし(例:助成が何年続くか等)、皆さんからの意見出しが必要だと思う。単なる情報交換で終始しないようにしたい。成果を出していくことが重要だと思う。
2	外部支援組織によるエンドレスでの支援活動には無理があると思う。外部支援がなくなったとき地域に何も残らなかった、という状態にしたくない思い。全国的な組織のネットワークを地域につないでいく役割をこの会議で担っていただければ。
3	社協にとっても役立つ情報がほしいと思う。社協の情報とネットワーク会議で出される情報をつなぎながら、協働でできる場所があれば幸い。この会議が「情報提供していく場」になってもらえればと思う。
4	このネットワーク会議を、どんな情報がほしいのかを投げ込める場にしたい。
5	復興のイメージがそれぞれ違う。ネットワーク会議を「実行」を伴うような情報交換の場にしないと。
6	将来を見越して先々を考えられる集団を作っていくことが重要だと思う。
7	このネットワーク会議は、半年先のことに向かって知恵を出す会議なのか、今の情報・現状を考える会議なのかを決めておくほうが参加者にとって分かりやすいし、密度の濃い会議になると思う。
8	今の課題がないと先が見えない。今の課題を出しあって、共有しあうことが重要。
9	このネットワーク会議事前会が今後ずっと地域を限定して(在仙で)行われるのではなく、沿岸部の被災地の方にも入ってもらわないと会議のバランスが悪くなると思う。1団体でできないことを連携してやる「実行」が重要で、情報交換だけでは意味がない。
10	地域において1団体で解決できないところをつなぐのがネットワーク会議の場だと思う。ネットワーク会議を起点としてテーマ、地域、セクターを越えた関わりをもちながら動きを作り出し、国、自治体、企業を動かす場になっていければ良い。
11	参加のデザイン設定が必要。会議に参加するうえでの基本ルールがあると良い(例:会議を批判する場にしない等)。

(※)本表は、7月11日「復興みやぎネットワーク会議事前会」で出された意見をまとめたものです。